非行経験のある支援者だからこそ

修士１年　粟井小枝

一般社団法人　日本自立準備ホーム　代表理事　高坂さま

印象に残ったことは，高坂さんが非行の経験のある支援者という点でした．
非行少年の「更生」と一言で言っても，様々な環境や背景を持った少年たちに対する支援は一人ひとり違うと思います．土地柄，年齢，性別，障害の有無，国籍などによっても，支援は変わってくると思います．その時に，経験者である支援者ができるサポートとは，という点に注目しました．

NPO法人再非行防止サポートセンター愛知のように，「非行歴がある支援者」と「非行歴がない支援者」では，支援の内容，共感，少年の立場になって考えること，有事においての対応の仕方など，差があると考えました．また，一人ひとりに合わせた個別ケアができることが望ましいと思いました．
私は，非行歴がありません．非行少年の話を聞いて，傾聴や受容はできると思いますが，共感や少年の立場になっては考えられないと思います．また，「どうしたらよいか．」などの相談にも，答えられないような気がします．制度的なことや，支援するネットワーク作りはできるけれど，芯の部分に触れるには，「同じ体験をした当事者」が一番の理解者なれるのではないかと思います．少年たちも，同じ経験をしたことがある人に対しては，心を開いていくのではないでしょうか．

頑張って少年院や少年鑑別所で更生しても，また地元に戻ってしまったら，同じグループとの繋がりが続き，再非行に結びついてしまうと思います．その元を断ち切るうえでも，県外に引っ越してスタートし直したいという希望があった場合，全国再非行防止ネットワーク協議会のようにサポートしてくれる機関と，一般社団法人日本自立準備ホーム協議会のように，居場所としての機能や「立ち直り」を支援し，更生を促す機関が支援していく体制が，再非行防止に向けての大きな役割を果たしていると思いました．

再非行を防ぐには，少年たちの環境を変えること，寄り添い，更生に向けて伴走してくえる支援者がいることが重要だということと，実際に行動している高坂さんのような方々が存在していることを学びました．
高坂さんが、そのエネルギー，そのパワーを少年たちに分け与えるからこそ，更生につながっているのだと感じました．

貴重なお話をありがとうございました．